

令和7年度中原区市民提案型事業結果報告会 摘録

- 1 日 時 令和8年3月26日(木) 11時00分～11時45分
- 2 場 所 中原区役所4階403会議室
- 3 出席者 委 員 小倉会長、今村委員、石井委員、国谷委員(欠席:齋藤委員)
団 体 とげぬきタイム、一般社団法人こどもファミリーサポートネットワ
ーク
事務局 中原区役所まちづくり推進部企画課 齋藤課長、戸田課長補佐、永井
職員

4 傍聴者 なし

5 議 題

- (1) 中原区市民提案型事業について(事務局)
- (2) 川崎市中原区市民提案型協働事業審査委員会委員の紹介・あいさつ(小倉会長)
- (3) 事業結果報告
- (4) 全体の講評(小倉会長)
- (5) 主催者あいさつ・閉会

6 内 容

※摘録につき「である」調で記載、敬称等省略の上、ポイントを抜粋して記載

- (1) 中原区市民提案型事業について(事務局)
- (2) 川崎市中原区市民提案型協働事業審査委員の紹介・あいさつ(小倉会長)
- (3) 事業結果報告

ア 事業名: 子どもの居場所づくりのためのイベント実施事業

実施団体: とげぬきタイム

【実施団体からの事業結果報告】

【講評・質疑応答】

(国谷委員)

専門知識が必要な事業かと思う。事業収支決算書で、「専門的知識・技術を要する業務を外部に委託する費用」の項目に記載がなく、疑問に思っていた。

(実施団体)

団体代表者が過去に理科の教員をしており、授業で取り扱った内容も含めて実施した。「カンジモンスターズ」は、中原区で活動している方を通じてゲームの制作者と繋がりを持ち、研修を受けたり、資格を取ったりしたことがきっかけで実施した。「ペットボトルロケット」については、別団体の活動でロケット教室を実施

しているが、火薬を使用するため、開催できる場所が限られ困っていた。今後の活動を考え、ペットボトルロケットを試すこととなり、1度だけ実施した。その時の子どもの姿を見て、とげぬきタイムの活動にもリンクするため、今回の事業でやらせていただいた。

(小倉会長)

今年度はイベント的に実施されたと思うが、イベントに参加して楽しいと感じてもらった部分はあくまで導入部分であると思う。イベントに集まった方々が持続的に集まることができる場を今後展開していく希望や考えはあるか。参加者がイベントに参加して、楽しさを感じ、色々な人と関わることがきっかけで、地域の中で自分達の開かれた社会ができていくことはもちろん大事だが、イベントが年4回程度であれば関係が持続できない。そのため、大きなイベントの間に、居場所のような場所があれば良いと思った。そういった発想はあるか。

(実施団体)

結論から言うと、そういった発想は無い。なぜかという、多忙により、代表者自身の活動の限界が年4回程度であるため。また、持続的な居場所づくりの活動では、子どもや地域の方が居場所に来ることが目的になると思うが、団体スタッフの負担が大きくなると、一緒に手伝ってくれる人が少なくなってしまう気がしている。年4回のイベントで、果たせるものが小さくなってしまふことは当然感じるが、逆にその4回で自分達ができることを最大限で実施し、地域に還元したい。地域の寺子屋事業やわくわくプラザとはまた別の活動として、隙間にニッチに入ってくるような、価値のある活動ができると良いと感じている。

(小倉会長)

そういった考えであれば、持続的に活動している場所と連携を取り、参加者に情報提供すると良い。色々な情報を集めて、それを発信することはできると思う。参加者にはそういった情報を提供して、その情報によって子ども達が地域の別の場所に入っていける、そういったハブみたいな取組を是非考えていただきたい。

(石井委員)

負担金を受給して、単発イベントだけで終わってしまうことはもったいない。本来は、色々な活動を継続していく団体としてのスキームが作り上げられると一番良いと思う。会長の意見と重なるが、単発イベントを実施して、それだけに来ていただくというよりも、わくわくプラザや地域の寺子屋事業等、色々な取組と連携していくと、活動の幅が広がっていく。実施されているイベント自体は子ども達も非常に喜んで参加していると思う。

(今村委員)

現在、川崎市では、中・高校生の居場所づくりについての議論が始まっている。小学校ではわくわくプラザ等があるが、中学生となると、なかなかそういった場所

もなく、どのようなニーズがあるかも含めて検討しなくてはならない状況にある。そういった点で、とても行政ニーズにマッチした取組であると感じている。今回はどちらかという小学生向けかと思うが、中学生向けのイベントも考えていただけるといいのではないか。教員の経験があるということで、とても楽しいイベントであったことが推察される。色々な居場所がある中で、さらに発展していくと良いと思う。今回はスモールスタートということでもあると思うので、将来的にはそういったところも展望して活動していただけたらと思う。これからも中原区を盛り上げていただけると有難い。

イ 事業名： こども街かど相談会事業

実施団体： 一般社団法人こどもファミリーサポートネットワーク

【実施団体からの事業結果報告】

【講評・質疑応答】

(国谷委員)

とても社会的意義のある活動であると思う。こういった場所が中原区にあって嬉しい。個人的な相談になってしまうかもしれないが、登校時の子どもの見守りをしており、毎日子どもの顔を見る。たまに様子が心配な子どもがいるが、どうしてあげたら良いか分からない。そういった子どもにも積極的に相談会を紹介するような働きかけをしても良いものか。

(実施団体)

とても素晴らしいと思う。直接、子どもにチラシを渡して、我々に繋げていただくことも一つの手立てである。心配であるが、行政や学校に伝えるほどではないといったハードルは皆さんあると思う。そういった意味で、相談会で相談してもらえば、医師や弁護士でどういったアプローチができるか検討できたり、行政側に相談して、その子どもを見守ってもらったりする等の手段を講じることができる。我々が全てに直接対応することは、すぐには難しいとは思いますが、大人の目を増やすことが一番大事。今、気づいてもそれを封じ込めてしまうような社会風土があるので、くさびを打つための活動としてやっていけたらと思う。

(国谷委員)

今、子ども食堂がとても増えており、子どもも自力で行くことができるような風潮できてきている。その風潮に上手く乗り、そういった相談会に子どもが自力で行ける世の中になって欲しい。

(実施団体)

中原区はそういった活動が活発で、子ども無料の食堂もある。いくつかの子ども食堂ネットワークの代表者とも知り合うことができたため、そういったところで我々の活動を宣伝し、気軽に相談して良い場所であることを知らせていきたい。子

ども達に聞くと、児童相談所や行政は敷居が高すぎると言う。学校にもなかなか相談しづらく、やはり第三者的な、中立的な立場の組織が必要であると思っている。そういったところで、色々な紹介をしたり、楽しい活動に繋がったり、子ども達のために色々できると思っている。

(国谷委員)

大人がいつもポケットに入れておいて、咄嗟に渡せるような、名刺型の広報物があると良い。

(実施団体)

是非準備していきたい。

(石井委員)

相談窓口が多いことは素晴らしいことであると思う。相談会の対象者は保護者か。

(実施団体)

対象者は保護者も子どもも、両方。様子が気になる子どもを目撃した方でも良い。

(石井委員)

説明の中でもおっしゃっていたが、今、悩みの範囲が非常に幅広い。20分の相談時間の中では決して解決できず、内容によってはかなり寄り添う必要も生じ、そういった部分が課題であると思う。今、公立小学校では、GIGA端末で直接相談ができる手段を導入する等、行政も色々実施しているが、実施できていない、敷居が高い部分もある。一方で、どういったところに繋げていくかといった仕組みづくりも必要になってくる。川崎市生涯学習財団では、子ども夢パークの指定管理を担っており、通って来られる方もたくさんいらっしゃるが、色々なチャンネルで、どのように解決していくか、それは大きな塊の中でも考えていく必要がある。その辺りが上手く連携できるとより良い。おっしゃられたように、気軽に行ける、そして「ちょっと話してみようかな」という気持ちが生まれるという部分は非常に大事。

(小倉会長)

是非やっていただきたい内容であるが、いかんせん、見え方が硬すぎる。気軽に来ることができるという見せ方と、カフェや楽しいイベントのような雰囲気づくりが必要。また、自分達だけで実施するのではなく、他団体がイベントを実施する時に相談コーナーを作ってもらったり、子ども食堂の中でチラシを配布したりする等の連携があると良い。また、将来的に、常設の相談の場があるとより良い。中原区には、主に大人向けに類似の相談会を実施している団体もある。その団体は、最近、小さな部屋で図書館をはじめた。相談が無くともそこで本を読んだり、リラックスしたりできる。そういった活動を見学して、ノウハウを聞いてみると良い。運営は大変かと思うが、やはり専門家が地域の中で活動してくださることはとても大事。そういった中で、お互いに連携し、情報交換して、より地域に密着した活

動になれるか、という部分を考えていただくことが次に繋がる。また、電話相談ができる相談場所が川崎市でもいくつかあるが、匿名で、電話で相談できる取組もできると良い。毎日でなくとも、例えば第1月曜日の夜、何時から何時までのみ対応する等、最初は短くても良いと思う。面談での相談については、事前予約をされた方には30分時間を取る、広い会議室を仕切って、間をあけて3人ほど同時に対応できるようにする等の工夫もできる。また、講演会については、子どもを対象とするか、大人を対象とするかにより中身や話し方が違ってくると思う。

(実施団体)

一応、小学校高学年程度をターゲットに話す形で、親も一緒に聞いてわかるようにした。

(小倉会長)

広報はどのように実施したか。

(実施団体)

各小学校でのチラシ配布、公共施設でのチラシ配架、川崎市のSNSやアプリへの掲載等を実施した。参加者はチラシを見て参加された。

(小倉会長)

こども文化センターには、無料でチラシの配架ができる。また、タウンニュースに掲載せるとかなり広報力がある。色々なツールを使うと良い。一番の課題としては、より参加したくなるチラシの作成。人が参加したくなるチラシを作らないと、積極的に参加しようという気にならない。チラシ作りを手伝う団体もある。チラシのデザインを変えるとかなり集客も変わってくる。

(今村委員)

最初に御提案をいただいた時に、これだけのスキルを持っている方々に事業をやっていただけるのかと思った。一方で、参加者が少なかったことに少し驚きを感じている。中原区は若い世帯が多く、子どもも増えている。本当にこれから求められる取組であると思っている。行政が十分に広報の点でサポートができたかという反省もあるが、子ども達にきちんと伝わるような形をつくり、今後10年、20年後、子ども達が声を上げられる仕組みがあったら良いと思う。今後とも頑張りたい。

(4) 全体の講評 (小倉会長)

本当に良い発想の事業であったと思う。この取組をどう地域に広げていくか、繋げていくかが大事。地域の色々な団体と繋がって、情報を収集してどのように広げていくのか。区内には様々なイベントがある。イベントに参加して名刺交換をしたり、市民活動センターのごえんカフェに参加して情報交換をしたり、そういった場所で交流を深めると良い。その際には、自分の活動内容が分かるリーフレットや名刺、チラ

シ等のツールを必ず持参し、営業に使う必要がある。地域の中で、ネットワークを組
みながら新しい活動へ広げていけば、中原区の子ども達にとって豊かな社会になる
と思う。

(5) 主催者あいさつ・閉会